

# 信頼の絆と授業改善

## —「先憂後楽」の心で—

上高井教育会長 清水 孟



第178号

発行所 上高井教育会  
発行人 上高井教育会長 孟  
編集人 清水 孟  
編集委員 池田 須  
印刷所 須坂新聞社

はからずも諸先生方のご推挙によりまして、伝統ある上高井教育会の平成10年度教育会長を仰せつかりました。

もとより浅学非才の者であります。これから精一杯、子供達と上高井教育会の発展のために全力を尽くす覚悟です。なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、私たちの上高井教育会は、不易なるものの確実な継承に邁進すると共に、国をあげての教育改革の時代を迎え、直面している教育上の諸問題に、すぐれた教育実践で内外の期待に応えたいと願い、その第一歩を踏み出しました。

この希望に燃えている時にあたり、私は二つのことを申し上げたいと思います。

その第一は、一人でも多くの人を知ることの大切さであります。信頼の絆で結ばれた上高井教育会でありたい。内外の困難な教育問題に、力を合わせ、大きな自信と勇気をもって事に当たりたい。会員同士、切磋琢磨し合う機会をそして親しく語る機会を大切に

にしたい。熱っぽく教育を語る楽しさ。それを昔話にしてはならないと思う。

その第二は、子供に「生きる力」をつける授業研究の重要性についてであります。研究主題を「自ら課題をもって追究し、学ぶ喜びを味わえる授業（二年次）」とし、授業そのものの在り方を重視して、私たちはその研究を現在着々と進めております。

私たちは、この主題を直視し、座右の銘とし、その真の実現を目指して、本気になって授業改善を進める必要があります。

時代の要請に応える教育を創造し、推進する視点から、これまで積み上げてきた上高井の教育研究を基礎として、創造力にあふれ、自らを律しつつ他人と協調し、国際社会に貢献し、たくましく生きる国際人としての資質を身に付けた人間をこの須高の地から輩出することが求められているのではないのでしょうか。

授業改善への努力は、その能力が要求される最たるもの一つであります。シェ

タイナー教育あるいは問題解決学習、国語単元学習、合科・総合学習など、いずれも子供の内的意欲に根差した教育実践である点に共通するものがあります。教えるべきことは徹底的に教えるべきであります。常にそれも子供自身の意欲と問題意識に沿ったものでありたいものです。その創造的歩みはたしかに苦しいに違いありません。教科書だけをムチを振り振りチーパッパやっているスズメの学校の先生のほうがよほど楽にちがいない。

しかしながら、これからの時代を生きる人間に求められる資質や能力は、豊かな人間性とたくましく生きる力であり、また、自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力であります。

今こそ、私たちは、そういう力が子供達にも、自分自身にも付くにはどのようにすればよいかを憂う感性を持ちたいと思います。教育の危機だ、教育の崩壊だなんて、いかに世の中が騒ごうがわめこうがあわてないで、子供を直接教育している専門家は私たち教師ですから、世間より先に憂うべきを憂い、世の人々が楽しんで最後に、本気になって楽しみたいものであります。つまり「先憂後楽」というわけ

で、黄門水戸光圀が江戸小石川の上屋敷の庭園を「後楽園」と名付けたことでも知られた言葉です。「土はまさに天下の憂に先んじて憂い、天下のことにできる感性を磨きたいものだから、司馬遼太郎が述べたのと、私のご挨拶と「街道をゆく」シリーズのうちの『本郷界限』という本の

### 教育会だより

と名付けたことでも知られた言葉です。「土はまさに天下の憂に先んじて憂い、天下のことにできる感性を磨きたいものだから、司馬遼太郎が述べたのと、私のご挨拶と「街道をゆく」シリーズのうちの『本郷界限』という本の

- 4・1 選挙公示(役員選挙)
- 4・2 第1回代議員会 第2回選挙管理委員会
- 4・4 理事長選挙 第3回選挙管理委員会
- 4・7 第2回代議員会 第4回選挙管理委員会
- 4・8 副理事長、理事、信教常任委員、信教代議員選挙
- 4・16 第5回選挙管理委員会
- 4・22 第1回常任委員会
- 4・27 教育研究会三団体発足会
- 4・28 教育会会計監査
- 5・1 第3回代議員会・新任会員歓迎会(新任会員8名)
- 5・1 第6回選挙管理委員会
- 5・1 監事選挙 第7回選挙管理委員会
- 5・1 研究総委員会・同好会発足(於須坂小学校)
- 5・16 第2回常任委員会
- 5・16 教育会定期総会・講演会(於市民館三階ホール)
- 5・16 平成9年度会務並びに決算・平成10年度事業計画並びに予算の承認
- 5・18 講演/講師 谷川彰英先生(筑波大学教授)
- 5・26 演題「総合」学習と学びの組織化
- 5・28 研究会発表 矢島敏司教諭(小布施中)
- 6・2 「中高交流を終えて」
- 6・7 第1回研究委員会世話係・委員長会
- 6・2 研究小委員会
- 6・2 同好会
- 6・2 第3回常任委員会
- 6・7 第12回信濃教育会定期総集會(下伊那郡松川中学校本会から29名参加)
- 6・23 第4回代議員会
- 7・10 谷川彰英先生ご指導 生活科(於高甫小学校)
- 7・14 同好会
- 7・23 上高井教育会報第178号発行

# 研究委員会の質を問う

研究委員会会長

## 重倉 紘一

「自ら課題をもって追究し、学ぶ喜びの味わえる授業」を中心テーマに設定し、二年度を迎えます。

昨年度、中心講師の谷川先生をお迎えした特別活動と社会科の研究委員会では、直接谷川先生の司会のもとに研究会が進められました。これは、各研究委員会の授業を通しての研究会が、年一回になるという変革に伴い、職能の向上を目指す教師集団の「研究会の質を問う」という願いからの試みでもありました。

また、日滝小学校で行われた社会科の研究会でも、やはり三、四名の小グループが作られ「今日の授業のよかった点三つ、問題点を三つ挙げてください」という課題が出され、小グループでの話し合いが取られました。この、「よい点三つ」の課題が参加者の口を滑らかにしてくれ、問題点についても挙げやすくなったように感じました。この後、代表者の発表から、四つの課題別グループが作られ、参加者は自分の希望するグループに移動して研究会が進められたわけです。課題別グループでは、日ごろの実践にもづく成功や失敗の体験が出された話し合いとなり、深まりのある大変有意義な研究会がなされました。

この研究会の様子を簡単に紹介したいと思います。日野小学校で行われた特別活動の研究会では、まず参加者全員が三、四名の小グループに分けられました。そこで、「今日の授業についての感想を話し合ってください。」というフリートークの時間を十分間ほど取られました。授業者が含まれない小グループのフリートークでは、お互いに率直な授業の感想を十分出し合うことができます。それをグループの一人がまとめ全体に発表する。司会の谷川先生は、代表者の発表から三つの討議の柱を建てられ、全体の研究会を進められたわけです。五

十名を越す参加者でしたが、まさに参加型の授業、研究会でした。

また、日滝小学校で行われた社会科の研究会でも、やはり三、四名の小グループが作られ「今日の授業のよかった点三つ、問題点を三つ挙げてください」という課題が出され、小グループでの話し合いが取られました。この、「よい点三つ」の課題が参加者の口を滑らかにしてくれ、問題点についても挙げやすくなったように感じました。この後、代表者の発表から、四つの課題別グループが作られ、参加者は自分の希望するグループに移動して研究会が進められたわけです。課題別グループでは、日ごろの実践にもづく成功や失敗の体験が出された話し合いとなり、深まりのある大変有意義な研究会がなされました。

今年度は、「ひとりひとりの子どもが喜んでひたりこみ、自らの思いを深めていく支援はどうあったらよいか」一どんなこだわりをもって見極めてというテーマで、研究を進めています。

7月10日(金)には、中心講師の筑波大学教授谷川彰英先生をお迎えして、高甫小学校で授業研究会を行います。

○小单元名「ぼく・わたしのハンカチ」二年敬組 保坂

今年度は、「ひとりひとりの子どもが喜んでひたりこみ、自らの思いを深めていく支援はどうあったらよいか」一どんなこだわりをもって見極めてというテーマで、研究を進めています。

7月10日(金)には、中心講師の筑波大学教授谷川彰英先生をお迎えして、高甫小学校で授業研究会を行います。

○小单元名「ぼく・わたしのハンカチ」二年敬組 保坂

# 今年度の生活科研究委員会

## 春日山さだ子

尚貴先生

高甫という自然豊かな環境に育った子ども達は、町毎探検隊を作って高甫探検をしました。桜の花の咲いている場所を調べてお花見をしたり、地域の人々から情報を得て、食べられる植物を捜して食べたりと、活動が広がっていき、食べられる草で教室が賑わっている中、J男がシソの葉を持って来て、「これで

やりに出たこと、今度は色水作りへと発展しました。ペットボトルに葉を入れひたすら振ったり、棒でつぶしたり、すり鉢ですったりと、自分のやり方で色水を作っていました。終わった子は、クロバーやタンポポなど他の花の色水作りへと活動を広げていきました。ところが、きれいな色水になってみれば、くすくす消えてしまう物もあり、どうしようか相談をしました。何か染めてしまえば色が残ると考え、作った色水で紙や布を染める活動へと発展していきました。

お気に入りの色水を作ったの願いに向かって、どんなこだわりをもって追求して、どんな楽しみます。高甫の地域素材を生かし、ひとりひとりをどうみとり支援していくか、研究を深めたいところで、特設された日です。郡内から40数名の先生方が参加してください。授業も楽しみですが、谷川先生がどんな研究会をされるか、どんな研究会になるか、またどんな指導をされるかとも楽しみます。このような機会を与えていただき、深く感謝申し上げます。(仁礼小)

平成10年度 県外視察者 上高井教育会 (敬称略)

学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施予定
相森中	越正行	障害者のための企業施設の見学・研修	鶴ヶ島方面	7~8月
小布施中	北沢秀忠	保健体育の研究授業参観と研究会参加	関東方面	2学期
高山中	佐々木清一郎	教科における生徒指導のあり方について	関西方面	11月か1月
東中	村石 靖	「総合学習」の研究セミナーに参加し研修する	東京	8月
墨坂中	牛越雅紀	生徒指導のあり方について	関東	9月
日滝小	赤沼陽子	堀川小学校の公開授業参観と研究会への参加	堀川小学校	5月28・29日
須坂小	塚田久美子	新潟大学公開授業参観～総合的な学習の研究会参加	新潟大学	5月28・29日
高山小	丸山和男	公開授業参観と研究会参加	東京方面	5月上旬
仁礼小	斉藤 章子	総合学習についての研究～教科・領域の進展	新潟大学	5月28・29日
日野小	北澤英和	調査活動や体験活動を有効に生かした社会科学習	広島方面	11月
日野小	片山洋一	個々のとらえに応じた教師の支援のあり方	中京方面	11月
須坂小	宮坂ゆかり	日本国語学会に参加して研修をする	東京方面	8月上旬
森上小	山岸信之	社会科指導で子供の見方考え方を深める指導法	千葉県	10月頃
小山小	百瀬美千代	家庭教育の現状と課題について研修と視察	千葉県	11月12日
小山小	北村直子	国語教育で毛筆・硬筆指導のあり方について研修	関東	11月17日
小山小	小原 ゆり	算数・数学教育の指導のあり方について研究会参加	東京	8月11・12日
墨坂中	高坂秀樹	中学校における学級活動や教科指導の研修	上越教育大	2学期
豊洲小	喜多篤史	社会科教育の現状と課題を授業参観・研究会で研修	東京	11月
栗が丘小	武田 文夫	カルテ、座席表授業案を手がかりに個に迫る授業	安東小学校	11月11日
高甫小	土屋 仁美	学校保健教育の先進校の参観・研修	関東方面	10~11月
井上小	前角 増次	水平社宣言の執筆西光吉の故郷を訪ね同和教育に資する	奈良	11月下旬
旭ヶ丘小	藤沢 隆之	生活科の教材化と指導法について授業参観・研究会参加	関東方面	2学期
常盤中	大口 征美	生徒が興味をもち学習に取り組む理科環境・施設見学	北陸方面	8月
墨坂中	山名 博夫	環境教育および社会科教育について授業研究・参観	関西方面	11月上旬
豊丘小	大草 政子	オープンスクールや生涯学習、総合教育の先進地視察	名古屋方面	10月下旬

# みがきあうこと

同好会会長 久田恵四郎

本校では、六月二十日に音楽会を行った。

私は音楽会になると、新任の頃の家庭訪問の時の父親のことばを思いおこす。

その父親は、木曾出身の先生で、たしか当時は、音楽の指導主事をなさって居られたように思う。

その先生が、木曾地方の小学校の兄弟の自分の担任の先生への会話として、次のような話を下さった。

兄「ぼくの先生は音楽が得意で、オルガンを両手でとでも上手にひくんだぞ」

弟「ぼくの先生なんか、片手でひけるんだぞ」

教師になりたての私に、保護者である先生は、何をうったえようとしていたのであるうか。

音楽の技能からすれば弟の担任は、兄の担任にはるかに劣っている。弟が語る担任には、子どもにも立ち向かう姿勢の中に、一所懸命さと情熱が伝わってくる。子どもにとって教師とは、そんな姿にほれるのである。二人の兄弟のほほえましい会話の中から、教師のありようを教えてくださいるように思える。

子どもたちが「おれたの先生はすごいんだぞ」と自慢しあえる教師になれるよう、我々自身が求め、追求し、学び合おうとしている姿を、子ども達の前にさらけてみせたいものである。

幸い上高井教育会には、歴史と伝統を受け継いで、同好会が集い、研鑽できる同好会が脈々と続いている。

本年度も十五の同好会に、二百八十一名の先生方が、自ら希望した同好会に参集して研修を深めようとしている。

地歴は、四十一名。体育は三十名。理科は二十九名と、会員数も多く、活動内容を工夫して頂き、個々の願いを生かして頂きたい。

また、会員数の少ない、道徳教育、俳文学、カウンセリング等の同好会では、個々の力を十分に発揮しあえる場として取り組んで頂きたい。

哲学同好会は、二十名の会員でスタートした。先輩の先生方と話す、「今の教師に哲学がない」という声を耳にする。そんな中、会員数も倍増した哲学同好会への期待も大きい。

「教師が燃える時、子どもも燃える」といわれる。同好会の仲間と語り合う中から、個々の力量を高め、自信をもって子ども達に立ち向かっていきたい。

(井上小)

# 教育心理同好会紹介

片山 洋一

教育心理同好会の紹介の前に一つトピックスを...

わたしたちが職場で使うエネルギーを100%とすると、純粋に仕事に使うエネルギーはわずか20%なのだそう。残りの80%は、職場内の対人関係に使うエネルギーなのだそう。いかにストレス社会を表す数字ではないでしょうか。

そのことは、一般社会だけでなく、子どもたちが生きる学校社会についても言えるように思います。友だちに対し

使用するエネルギー、先生に対して使うエネルギー、部活をやっている子は先輩にもエネルギーを使っています。純粋に勉強に使うエネルギーは、どれくらいのものか想像は難しくありません。また、家に帰れば親から小言を言われ、兄弟につつかれ、休まる間がありません。

子どもたちを取りまく対人関係がこういう状況で、また社会の変化などから対人関係の作り方が未発達な子どもたちも増えてきています。そうなること、対人関係のストレスを学校で暴れることで解消したり、学校から逃避したりすることが見られるのではないのでしょうか。いじめ・不登校そして校内暴力など、マスクミで取り上げられない日がないほど日常的で大きな問題となっている現実にもうなずけます。

教育心理同好会では、これらの問題を、子どもたちの心の問題としてとらえ、子どもサイドから問題行動を考えようとして取り組んでいます。今年度の活動を紹介しますと、定例の同好会では、クラスの子どもたちの姿を事例にしながら、会員みんなで意見交換をしています。ベテランの先生

から若い先生、そして養護の先生や特殊の先生など、いろいろな立場から話を聞くことができ、参考になることが多いです。多様化する子ども達の姿について、じっくり話し合えるからです。

また、七月三十一日には、信州大学教育学部心理臨床学教授の川島一夫先生をお迎えして、講演会も計画しています。発達心理学の有意義なお話を聞くことができると思います。

これからは、心理学の時代。先生方も、学校での対人関係のエネルギーの使い過ぎに注意して、元気に働いてください。

(日野小)

本校の宝②

「のびゆく」像

栗ガ丘小学校

今回は、正面玄関前に建つ「のびゆく」像を紹介してみたい。

学校の正面に建てられたこのブロンズ像は、のびゆく良い子を象徴したもので、児童と教師と親の希望、そして、地域の志向がこめられている。像が建つ場所は昭和20年までは奉安殿が置かれていた所であったが、更生して新時代の教育を志

向するにふさわしい位置として昭和37年10月にこの場所に竣工された。像の作者は東京都矢崎虎夫氏、「のびゆく」の題字は川村驥山氏による。

昭和36年、教育の発展を願う同窓生の発起と賛助を主軸として、三五〇余名の町内各方面の協賛を得ながら当時の費用二五〇万円を以て完成した。この像が永く小布施町の教育振興の象徴となるよう祈願して止まらぬ当時の人々の思いが伝わってくる。

私たちの栗ガ丘小学校は昭和47年、当時の小布施小学校と都住小学校が合併して現在に至っている。

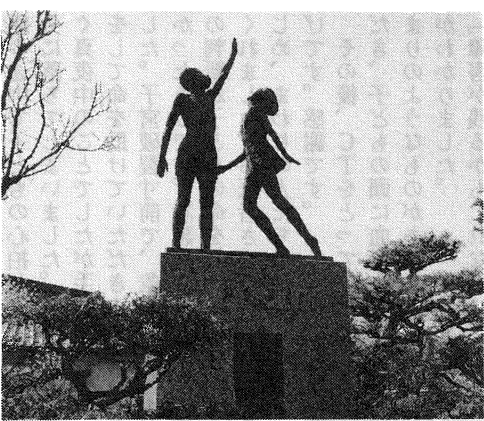
像に込められたねがいは、

から若い先生、そして養護の先生や特殊の先生など、いろいろな立場から話を聞くことができ、参考になることが多いです。多様化する子ども達の姿について、じっくり話し合えるからです。

また、七月三十一日には、信州大学教育学部心理臨床学教授の川島一夫先生をお迎えして、講演会も計画しています。発達心理学の有意義なお話を聞くことができると思います。

これからは、心理学の時代。先生方も、学校での対人関係のエネルギーの使い過ぎに注意して、元気に働いてください。

(日野小)

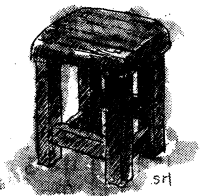


一昨年より校舎の耐震大規模改修工事が町当局によって進められ、校舎環境が格段に整えられつつある中で、児童はもとより私たち教師も思いを新たに、保護者や地域と一体となって新しい時代にあふさわしい教育実践に日々邁進していかなければならない。

学校完全五日制にもなう教育課程審議会答申案がちょうど公表されたときでもあ

(清水 岩夫)

# 火ばら談義



旭ヶ丘小 塩島弘之

## 感謝です

### 小林ゆかり

私たちは生きていくのではなく生かされている。子育てを通して私たちがとりまくまわりのあたたかさを実感しています。

小布施に嫁いで、男の子が二人生まれました。香輝と光輝といいますが、二人とも帝王切開で生まれました。破水し

光輝の出産のことです。陣

## ネパール・シヨートツリーング

### 成田達昭

「先生のオリンピック休みの日直と私の正月の日直替わってくれないか？」この一言が始まりでした。あわててパスポートを取り、旅行者に連絡を入れチケットを手配しても

らい、初めての海外旅行がスタートしたのであります。旅行のメインはヒマラヤの麓のトレッキング。最後の二日は自由行動。「自由行動」

旅は自分で作ってネ」ということなので、思いきってオートバイを借りましたが、ミラ

痛の途中で子どもの心拍が半分に落ちてしまいました。すぐ真夜中のことでしたが手術をして命を助けていただきました。子宮破裂寸前で、危なかったそうです。看護婦さんの判断が子どもの命を救ってくれました。お医者さまをはじめ、まわりの人たちのおかげです。感謝です。

その後、CTをとっていただき、子どもの頭に血のかたまりのようなものがあることがわかりました。

「障害が残るかもしれない」と言われました。また、「歩けないかもしれない。」

とも。子どもに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。涙が止まりませんでした。そんな時、看護婦さんが支えて

たカトマンズのバザールと違って誰も声をかけてこない。値段も安い。トビー(帽子)一つ75Rs、カトマンズの1/4の値段です。止まっているかのような時の中で、ただお客が来るのをジッと待っている

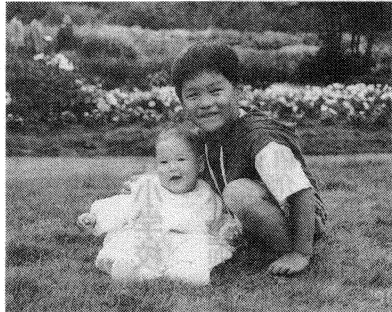
オジさんオバさん。観光客相手の賑やかな雰囲気とは違った一面を垣間見ることができました。

公務員の平均月収が一万円以下この国で、日本人観光客相手に上手く商売できれば大金を手に入れることができるわけですから客引きに必死になるのも分かります。最初、「騙されてなるものか」と、

ネパール人を疑いの眼差しで

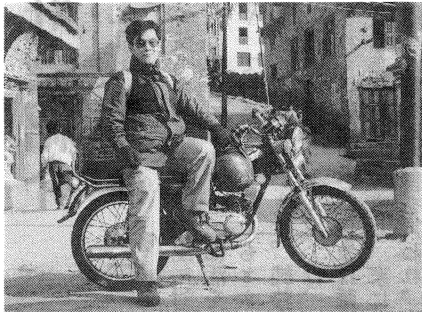
くれました。同室のお母さんが励ましてくれました。まわりに支えていただきながら、子どもと共に育てられていきます。子どもの笑顔を見るたびに元気がでます。子育ての喜びを感謝しつつ、まわりにかえ

(相森中)



見ていた自分が恥ずかしく思うと同時に、私のインキ英語でもなんとか一人で行動でき、楽しい思い出を残すことができましたことにただ感謝するのみです。

(日滝小)



## はまっています

### 渡辺玲子

楽しく、心身共にリフレッシュする時間です。

「先生、今、何にはまっています？」  
Y君に突然尋ねられ、様々な言葉が頭の中に浮かんで消えていきました。どれもじっくりこないのです。考えてみたら、はまり込むほど夢中になってやっている事が、今の自分には無いのだ、という事が見えてきました。

冒頭の質問の時、側にいた子供らは口々に言いました。「ぼくは、ハイパーヨーヨーだよ。○△☆×の技がむずかしいんだよ。」

「私はピアノ。毎日帰るとすぐひくし、学校でもひいているもん。」

「オレ、サッカー。日曜日は試合だよ。まだ出られないけど。」

この時ほど彼らをうらやましいと思った時は無いかも知れませんが、好きな事、楽しみな事を話す時のあの熱っぽい目。今の私はどんな目をして

いるのだろうか鏡をのぞき込むたくなりしました。

彼らほどはまり込んではいないもの、週一度の楽しみが私にもあります。それは、日曜早朝のソフトボールです。

車が見当たらず静かな街。小鳥のさえずりを聞きながらの練習。様々な立場・年齢の仲間とのおしゃべり。どれも

「はまっているじゃん、ソフトボールに。」  
さて、みなさんは今、何にはまっていますか。(小山小)

## 編集後記

さまざまなお知らせを本年度の一学期も終わろうとしています。お忙しい中、原稿をお寄せくださった先生方、本当にありがとうございました。

本年度は、次のメンバーで会議・会報をお届け致します。

- 委員長 永井 茂富(日野小)
- 副委員長 小池 勝雄(日滝小)
- 委員 柳原 孝子(高山小)
- 委員 長井 裕之(日滝小)
- 委員 中沢由紀(雄小山小)
- 委員 藤澤 隆之(旭ヶ丘小)
- 委員 山浦あつ子(小布施中)
- 委員 佐藤 玲子(相森中)
- 委員 高野喜久夫(常盤中)
- 委員 畑中恵美子(東中)

(藤澤・畑中)